



# 全日畜だより

第 54 号

令和 5年 1月 1日

<https://www.alpa.or.jp/>

## 新年あけましておめでとうございます

### 全日畜から 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年之情勢を振り返ってみますと、昨年ほど、牛、豚、鶏どの畜種にとっても経営環境が激動の年となったことはありません。コロナ禍、戦争、円安などにより、配合飼料をはじめ、燃料、電気など生産資材価格が高騰しました。さらに輸入に頼っている配合飼料原料や粗飼料が、お金を払っても入手できないようなこともありました。しかも、生産した生乳や、牛肉、豚肉、卵、鶏肉全てで、かかった費用を価格に適正に上乗せすることができませんでした。このため、牛さん豚さん鶏さんのどの経営も昨年は非常に苦戦されたと思います。特に酪農は非常に打撃を受けたと感じております。また、鳥インフルエンザや豚熱などで、鶏さん豚さんの打撃も大きかったです。

その中で、みなさんが、美味しくて安心できる牛乳、牛肉、豚肉、鶏肉、卵を食べてもらえるように経営継続の努力されているなか、私ども全日本畜産経営者協会としましては、JRA畜産振興事業や地方全日畜の活動を通して、みなさんの経営の参考となる情報をお伝えしたり、行政や国会議員に、今の生産現場の実状を伝え、より一層の支援をお願いしているところです。

今年は、うさぎ年です。卯は跳ねるという格言があります。株式市場ではそこから、景気が上向きに跳ねる、回復すると言われております。また、兎の耳はささいな音も聞きもらさないという意で、情報収集能力が高く、そのため運気がアップする、多産のため子孫繁栄など縁起が良いとされています。

今年は、そのようになってほしいものです。

全日本畜産経営者協会も役に立つ情報を集め、会員みなさんの飛躍の年になるための活動をしていきたいと思っております。



全日畜理事長 金子春雄

## 森山裕衆議院議員、野村哲郎参議院議員 (農林水産大臣)に畜産生産現場の実状を伝え、 一層の支援を要請しました



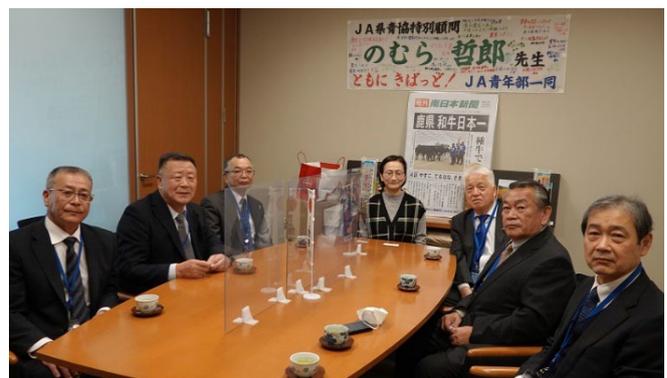
松永理事 牧原理事 金子理事長 森山衆議院議員 鶴菌理事 橋谷理事 鈴木常務理事

◎ 訪問日: 令和4年12月21日 (水)

○ 衆議院第1議員会館の森山議員の事務所を、金子理事長はじめとした各理事が訪問し、生産現場は非常に危機的な状況であることを述べ、より一層の支援を要請しました。森山議員からは、生産者が価格を自ら決められない状況も問題であり、食料安全保障が重要であること、それを消費者に理解して貰うことが重要と述べられました。

実際に、同事務所では消費者が良く理解されていない畜産物についての話題や情報などを女性誌に掲載して貰うなどを行っていることも伺いました。

◎ 参議院議員会館の野村議員の事務所を訪問し、野村農林水産大臣は次年度予算の大臣折衝で不在でしたが、田畑秘書に対応していただき、同様に生産現場の非常に危機的な状況を述べ、より一層の支援を要請した。田畑秘書からは、大臣に皆さんの実状については十分伝える旨返答をいただきました。



(文中での団体の略称標記について)

- 全日畜：一般社団法人 全日本畜産経営者協会 ●全日基：一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 工業会：協同組合 日本飼料工業会 ●〇〇県基金協会：一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会

# 令和4年度第3回理事会を開催



◎ 開催日時: 令和4年12月21日(水)(13:05~14:30)

◎ 開催場所: 機械振興会館 (東京都港区)

◎ 主な内容は、前回の理事会から第3回理事会までの令和4年度事業実施状況の報告及び、今後の事業の執行計画等についての承認をいただきました。

## 概 要

1. 前回の理事会から今回理事会までの事業実施状況報告については、以下が承認されました。
  - ・予算の執行状況等を報告。
  - ・JRA 畜産振興事業「農畜連携による畜産経営の強化調査事業」(農畜連携事業)については、11月14日に開催したワークショップ帯広会場、12月8日に開催したシンポジウムの結果を報告。
  - ・同JRA事業の「多角による畜産経営強化調査事業」(多角化事業)については、アンケート回収率7割及びワークショップ青森会場の結果を報告。
  - ・昨年度JRA事業で実施した「自然災害に強い畜産経営の実現調査事業」のJRA調査研究発表会の発表についての報告。
  - ・地方全日畜の活動並びに全日基会議への参加、工業会との研究会開催等の結果を報告。
2. 今後の事業計画については、2月2日にJRA事業の多角化事業の西日本でワークショップを山口市で開催予定などが報告し、承認されました。
3. その他で、事務局から、JRA事業の次年度応募概要等が説明されました。

## 理事意見の概要

まず、現在実施中のJRA事業は時宜を得たテーマで農業新聞をはじめ各地の地方紙、放送局にも取り上げられて、非常に有意義なものであると評価する。また、次年度事業応募案も今回の畜産危機に対処する等にも時宜を得たものとする。

政府は、食料安全保障の課題対処、食料・農業・農村基本法の見直しによる対策を検討している。全日畜の取り組みが、こうした国の二つの施策にどのように生産者の声として反映できるか、アウトプットをしっかりと考えた骨組み立て調査に取り組んで欲しい。国の危機克服の施策の中に、一つでも提言できるような成果を期待したい。

酪農では生乳の生産過剰に陥っているが、今後繁殖牛の増頭施策を続けると牛肉もそうならないか心配である。一方、豚、鶏は疾病の関係から不足になるのではないかと心配である。

コロナ禍の中でも皆が動き始めており、JRA事業のワークショップなどの開催などの県を広げていく工夫をしてもらいたい。  
などの意見が出ました。

## 令和4年度第3回運営委員会を開催

◎ 開催日時: 令和4年12月9日(金) (13:30~15:00)

◎ 開催方式: WEB(ZOOM)方式

◎ 議事概要

第3回理事会提出議題が主に説明、検討されました。

その中で委員からは、コロナ禍の中、各事業では対面でのWS、シンポジウム、そして現地調査などが実施され、

予定の事業がこなされているとの評価をいただいた。(工業会会議室をホスト会議室としたWEB開催)



## 全日畜シンポジウム 「地域資源を活用した農畜連携」を開催

1 開催日 令和4年12月8日(木) 13:00~16:00

2 会場 ホテル ポートプラザ ちば (JR京葉線千葉みなと駅前)



会場内

3 概要

JRA事業「農畜連携による畜産経営の強化調査事業」で実施

・参加者数60名

(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金協会の引地和明常務理事をモデレーターに、第1部で以下の6名から以下の演題で事例等の発表があり、第2部では、発表者並びに会場参加者のべ10人以上から、意見や質問が出された。

なお、これらの発表及び質疑応答は、後日速報レポートとして公表するとともに、全日畜ホームページに動画とともに掲載予定

発表者(発表順)	演題
・全日畜 専門員	
神谷康雄 氏	全日畜の実態調査からみた農畜連携の取組状況と課題
・千葉県農業会議 専門員	
高岡 晃 氏	「香取市耕畜連携農業推進協議会」の活動について
・ファームサポート香取酪農代表取締役	
長嶋 透 氏	地域資源の稲 WCS を有効活用する体制づくり
・(株)秋川牧園生産部次長	
村田 洋 氏	連系の秘訣は農業側と畜産側が ウィン ウィン であること
・(有)金子ファーム 取締役会長	
金子春雄 氏	稲作農家と畜産生産者で「もみ殻」の有効活用にチャレンジ
・元 農研機構農村工学研究所技術移転センター教授	
石田憲治 氏	耕畜連携から農畜連携へ (強靱な持続的畜産経営に向けて)



第1部 事例等の発表



第2部 質疑応答

(文中での団体の略称標記について)

- 全日畜：一般社団法人 全日本畜産経営者協会    ●全日基：一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 工業会：協同組合 日本飼料工業会    ●〇〇県基金協会：一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会